

脳卒中・心臓病等について（参考資料）

○脳卒中とは？

脳の血管が詰まったり（閉塞）破れる（出血）ことで、脳の働きが悪くなり、身体の機能に影響を及ぼす疾病で、主に以下の３つがあります。

- ・脳梗塞：血管が詰まる
- ・脳出血：血管が破れる
- ・くも膜下出血：脳動脈瘤が破裂する

日本では、脳卒中は死因の第４位で、寝たきりになる原因の第２位です。麻痺や言葉が話せなくなる、記憶があいまいになる等の後遺症が残ることがあります。脳卒中の最大の原因は高血圧で、食生活や運動などの生活習慣を改善することが発症予防に効果的です。また発症後には、早めのリハビリもとても重要となります。

○心臓病とは？

心臓の構造や機能に異常が生じることで起こる病気の総称で、代表的なものとしては、以下のような疾患があげられます。

- ・心不全：心臓のポンプ機能が低下する
- ・虚血性心疾患：心筋への血流が不足する
- ・心臓弁膜症：心臓の弁に異常がある
- ・不整脈：脈の乱れを伴う
- ・心筋症：心筋自体の異常がある
- ・先天性心疾患：生まれつきの構造異常がある

日本では、心臓病は死因の第２位で、特に高齢化の進展に伴い、心不全患者数が増加傾向にあります。脳卒中同様、生活習慣の改善が予防に効果的です。

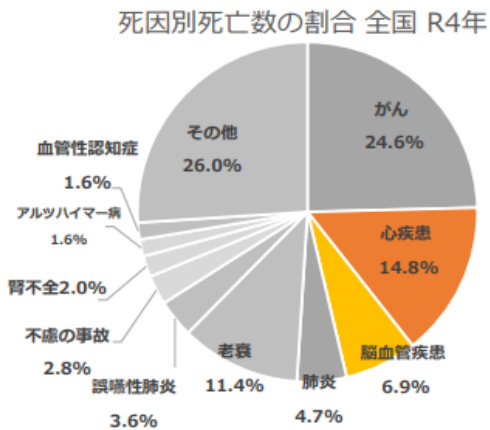
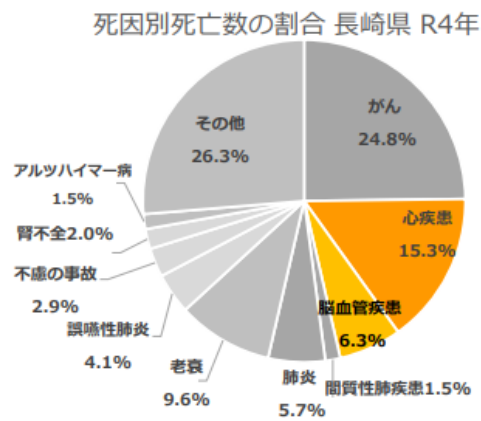
○本県の現状

全国同様、本県においても心疾患は死亡原因の第２位、脳血管疾患は第４位であり、心疾患と脳血管疾患をあわせると、年間約４千人の方が亡くなっています。

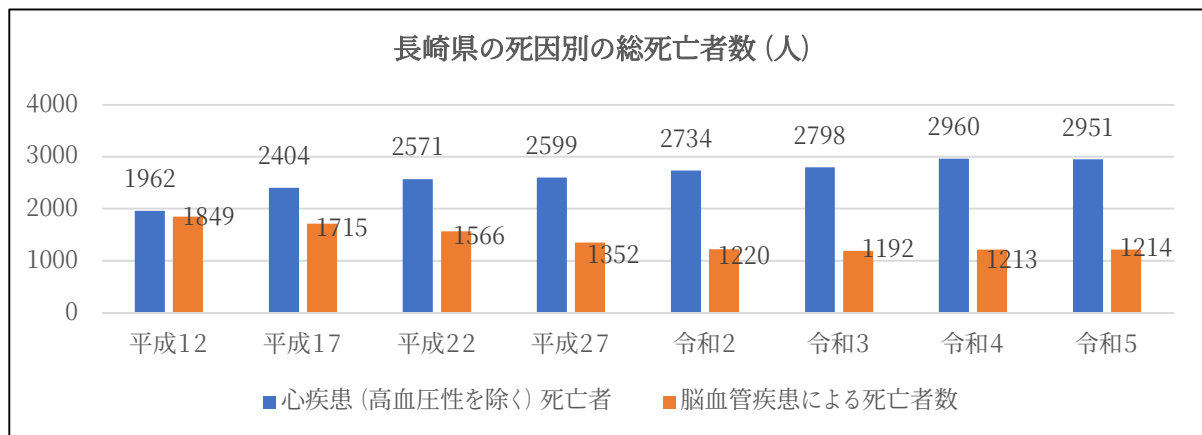
県内の心疾患の患者数の推計人数は、入院・外来ともにほぼ現状維持の状況。

県内の脳血管疾患の患者数の推計人数は、入院は減少傾向。外来の患者数は、ほぼ現状維持の状況。

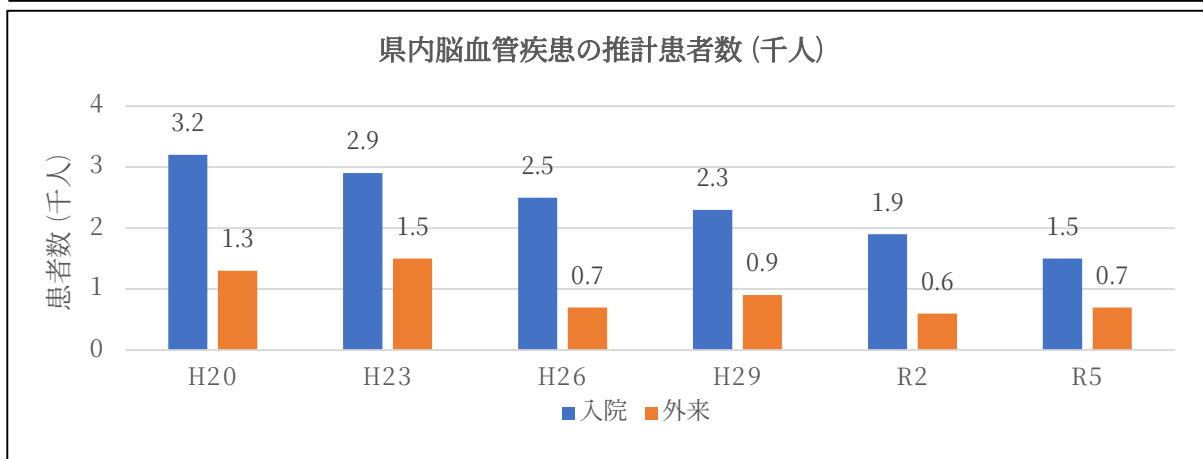
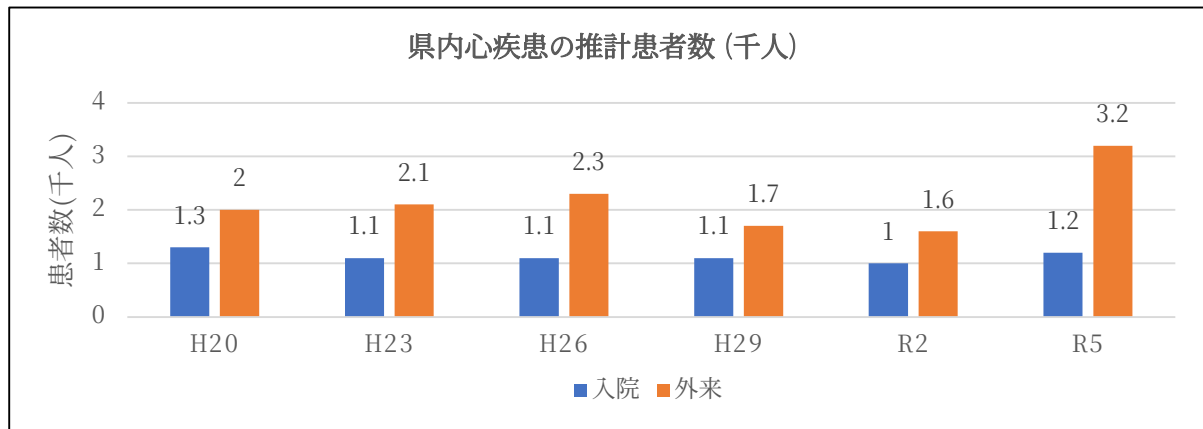
高齢化により、死亡者総数は増加傾向にありますが、年齢構成の違いを考慮し補正した年齢調整死亡率は減少傾向にあります。



出典:厚生労働省「人口動態統計」



出典:厚生労働省「人口動態統計」



出典:厚生労働省「患者調査」